

# 小樽港

推薦：小樽市



## 小樽港の概要

小樽港は、北海道西部、積丹半島の東側、石狩湾に面する弓状に入り込んだ海岸線に位置しており、北海道の中心都市である札幌市までの距離は約40kmで高速道路が港に直結しているほか、北海道の空の玄関口である新千歳空港まで快速電車で約1時間と交通アクセスが非常に良く、臨港地区や港の周辺には多くの商業施設や観光資源を有しており、港を中心として市街地を形成しています。

また、古くからニシンやサケの豊漁地として知られ、明治初頭に石炭の積出しや内陸部への物資供給の中継港として発展し、その後、明治32年に外国貿易港に指定され、今年で開港125年を迎える歴史ある重要港湾です。現在は、北海道日本海側の物流拠点港としての機能を有しているほか、近年ではクルーズ拠点港として観光分野でも重要な役割を果たしています。

## 北海道日本海側の物流拠点港

小樽港は日本海側長距離フェリー航路により、新潟港、舞鶴港と結ばれており、国内輸送拠点として重要な役割を担っているほか、北海道日本海側の穀物基地として古くから穀物関連機能の集積が図られています。

また、中国との間に定期コンテナ航路が結ばれているほか、ロシア・ウラジオストクとは定期航路が就航しており、不定期の貨物船の往来も含めて対岸諸国との貿易拠点としての役割を有しています。

中でもフェリーの小樽新潟航路は本年度で航路開設から50年を迎え、長年にわたり北海道と本州の物流・人流を支えてきました。引き続き、北海道経済の発展に貢献してまいります。



小樽新潟航路開設50周年式典（出港時のお見送り）

## 大型クルーズ船による新たな人流

小樽港は、これまでもクルーズ船誘致に積極的に取り組んでいますが、令和6年3月、市内中心部に近接する第3号ふ頭に14万トン級の大型クルーズ船対応岸壁が完成し、4月には供用記念式典も実施しました。

この岸壁の完成により、これまで市中心部から離れた勝納ふ頭に係留していた大型クルーズ船は、第3号ふ頭で受け入れることが可能となり、令和4年度に完成した既存上屋の一部を改良した小樽港クルーズターミナルと令和6年度に本格稼働した大型バス駐車場の利用とともに、乗船客の利便性が格段に向上しました。



第3号ふ頭に係留する大型クルーズ船

第3号ふ頭は、観光地として広く知られている小樽運河から徒歩3分の距離に位置し、クルーズ船の乗客が徒歩で市内を回遊することが可能になったことから、大型クルーズ船の寄港日には、市内随所で多くの外国人観光客が見られるなど、新たな人の流れが生まれた効果も実感しています。

## みなとオアシス小樽

第3号ふ頭及び周辺地域では、現在、官民で連携した再開発を行っており、令和6年3月には小樽観光振興公社により観光商業施設である「小樽国際インフォメーションセンター」がオープンし、この施設を代表施設とした「みなとオアシス小樽」が登録されました。このほか、この地域では、緑地や観光船ターミナル等を令和7年度末の完成を目標に整備を進めており、新たなみなと観光の拠点として、今後大きく様変わりするものと考えています。今後も周辺地域を「港を基に」をコンセプトとする「みなとオアシス小樽」として整備を行うとともに、多言語案内看板のハード面の整備、乗客の回遊を促すソフト面の充実など、クルーズ船誘致を起爆剤として、関連消費を域内経済に波及させる取組を官民で連携しながら進めてまいります。



# 大井川港

推薦：焼津市

## 大井川港の概要

静岡県の中央に位置する大井川港は、県内唯一の市営港湾であり、物流により地域経済を支える地方港湾です。大井川にある豊富な砂や砂利を運び出すための港として造られ、本年、開港60周年を迎えたところです。



大井川港 (2023年2月) 提供：国土交通省中部地方整備局清水港湾事務所

## 踊夏祭

夏には、「踊りがまちを揺らす 踊りがまちを変える！」を合言葉に、市民手作りの熱いダンスイベント「踊夏祭(おどらっかさい)」が港内の特設会場で開催されました。開港60周年を迎えた今年は、「手筒花火」が5年ぶりに復活、さらに「太平洋の白鳥」と称される大型練習帆船「日本丸」が初寄港し、市内外から約3万人の方々が訪れ、地元出身の実習生などとのふれあいにより、記念イベントを大いに盛り上げたところです。



大井川港に初寄港した「日本丸」

## みなとオアシスおおいがわ (平成26年認定)

春に開催される「大井川港朝市」には、水揚げされたばかりの生しらすや桜えびのかき揚げ、釜揚げなどの特産品を求め、約1万人の来場者で賑わっています。こ



大井川港朝市で大人気の生しらす

の桜えびは、全国で唯一駿河湾でのみ漁業が認められており、本港と由比漁港だけで水揚げされ、中でも、桜えびのかき揚げは、ご当地グルメとして多くの方に愛され、港内にある大井川港漁業協同組合直営食堂「さくら」で、新鮮な海の幸をご賞味いただけます。

秋には、岸壁の一部を開放し「大井川港釣り大会」が開催され、初心者から太公望までの幅広い釣り好きが集まり、港と釣りに親しむ素敵な一日となっています。

## 県内唯一の市営港湾であり、 地域経済を支える物流港

開港以来、石油・鉄鋼及び一般貨物を対象とした岸壁の整備により、エネルギー製品等を供給するなど、県中西部地域を中心に産業活動を支援し、多くの企業とともに地域経済の発展に大きな役割を果たす港湾に成長してきました。

令和5年の取扱い貨物量は、約159万トンと、静岡県内15港では、清水港、御前崎港、田子の浦港に次ぐ貨物の取扱いがあります。近年では、東名高速道路 大井川焼津藤枝スマートインターチェンジや国道150号バイパスの整備が進み、交通のネットワークの充実により、企業の物流の効率化を促進するポートセールスを積極的に展開しており、経済界や港湾利用者との連携強化を図っています。

以上のように、大井川港は「産業面で活気づく港湾」「市民主体で年々盛り上がる港湾」「県内外からしらすと桜えびを求めて観光客などが集まる港湾」として地方港湾の強みを生かし多方にわたり産業の発展と市民生活を支えています。本年度で開港60周年を迎え、今後も更なる賑わいの創出が期待されます。笑顔あふれる大井川港をポート・オブ・ザ・イヤー 2024 に推薦させていただきます。

# 高松港

推薦：香川県



## 高松港の概要

日本一小さい県である香川県の中心に位置する高松港は、「四国の海の玄関口」として、また、本州や離島との海上交通の要衝として重要な位置にあ



地理院地図を加工して作成

り、商港・観光港・工業港の機能を併せ持つ総合港湾として、県都高松市とともに発展してきました。

高松港が面する瀬戸内海国立公園は、日本で最初に国立公園に指定されてから今年で90周年を迎えており、県内各地で様々な記念イベントが開催されています。

## 旅行しやすいシームレスな移動環境

人流の中心である高松港玉藻地区は、多くの交通機関が集積する海陸交通の要衝に「みなと」と「まち」が一体となったエリアが形成され、「サンポート高松」の愛称で親しまれています。港の背後には市街地が広がっており、入港時には瀬戸内海の多島美と都市景観が楽しめます。クルーズ岸壁の近くには、船や鉄道、バス等で各地へアクセスできるターミナル機能があり、概ね1時間圏内に「金刀比羅宮」や「小豆島」、現代アートの聖地と呼ばれる「直島」などの観光地が数多くあり、世界的にも人気が高い瀬戸内国際芸術祭においては島々をめぐる際の拠点となっています。



R6.8.6香川県撮影

## 「四国の海の玄関口」としての

### 更なるにぎわいの創出と物流拠点としての機能強化

現在、サンポート高松では、中四国最大級の香川県立アリーナが整備中（令和7年2月開館予定）であ

るほか、JR高松駅の新駅ビルの開業や、大学・外資系最高級ホテルの建設といった、官民による大規模開発が進められています。また、クルーズの再興に向けた取り組みとして、11万トン級までのクルーズ客船を受入可能とするための整備を進めているほか、大阪・関西万博や瀬戸内国際芸術祭を契機に瀬戸内海を周遊する高付加価値旅行者の誘客を促進し、新たな観光需要の確保につなげるため、大型プレジャーボート受入施設の整備にも取り組んでいます。

一方、物流・生産拠点としての機能強化や防災安全性強化にも取り組んでおり、年々増加するコンテナ貨物や船舶大型化、モーダルシフト等の流れに対応するため、国際物流ターミナルや複合一貫輸送ターミナルの整備も進めています。

## 様々なポテンシャルを秘めた港として

高松港は、「世界の宝石」と言われる瀬戸内海に面し、アートや瀬戸内海の島々、日本三大水城の高松城等歴史的な景観が海との眺望と一体となるなど、他にはない様々なポテンシャルを秘めた素晴らしい港です。また、夏には防波堤から花火が打ち上げられますが、毎年、花火大会にあわせて入港するクルーズ客船「飛鳥Ⅱ」と夜空を彩る大輪の花火はまさに圧巻の光景です。

このように、都市機能と豊かな自然やアートが調和し、様々な取り組みを通じて魅力を高め続けている高松港を「みなとの元気を高めている港湾」として推薦します。



R6.8.13高松市撮影